

July 12, 2021

【前日の為替概況】ドル円、米 10 年債利回り 1.35%台と NY 株史上最高値で 110.26 円まで反発

9日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は110.14円と前営業日NY終値(109.72円)と比べて42銭程度のドル高水準だった。米国株式相場が堅調に推移し、主要3指数が史上最高値を更新すると、投資家のリスク志向が改善し円売り・ドル買いが優勢となった。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.35%台後半まで上昇したことも相場の支援材料となり、110.26円と日通し高値を更新した。

市場では「米系ヘッジファンドなどが重要視している50日移動平均線109.80円を明確に上抜けたことで買いも入りやすいが、ここからは一目均衡表基準線が位置する110.43円がレジスタンスとして意識される」との声が聞かれた。

米連邦準備理事会(FRB)は、米議会に年に2回提出する金融政策報告書を公表した。「短期的なインフレ見通しの上方向へのリスクが拡大した」と物価の上振れリスクを警戒しながらも、「供給制約が薄れるとともに2%強の目標水準に落ち着く」との従来の見解を強調した。金融政策については「完全に回復するまで経済を強力に支援し続ける」「リスクが発生した場合、金融政策のスタンスを調整する用意がある」と表明した。報告書は14-15日のパウエルFRB議長の議会証言に先立ち公表された。

ユーロドルは続伸。終値は1.1876ドルと前営業日NY終値(1.1845ドル)と比べて0.0031ドル程度のユーロ高水準だった。米国株相場の上昇を背景に投資家のリスク許容度が回復しユーロ買い・ドル売りが優勢になった。前日の高値1.1868ドルを上抜けて一時1.1881ドルまで上値を伸ばした。

ユーロ円は6営業日ぶりに反発。終値は130.80円と前営業日NY終値(129.95円)と比べて85銭程度のユーロ高水準。米国株が史上最高値を更新する中、リスク・オンの円売りが優勢となった。4時30分前に一時130.88円と日通し高値を更新した。

資源国のクロス円も堅調だった。WTI原油先物価格が大幅に上昇したことを受けて、産油国通貨に買いが集まった。カナダドル円は一時88.50円、メキシコペソ円は5.55円、ノルウェークローネ円は12.71円まで値を上げた。カナダドルについては、カナダ統計局が発表した6月カナダ雇用統計で、新規雇用者数が23.07万人増と予想の19.50万人増を上回ったことを好感した買いも見られた。

【本日の東京為替見通し】14日のパウエルFRB議長の議会証言控えて動意薄か

本日の東京外国為替市場のドル円は、今週の重要な経済指標やイベントを控えて動きづらい展開が予想される。

明日13日には、米6月の消費者物価指数が発表される。パウエルFRB議長は、米連邦準備理事会(FRB)のインフレ指標は、「個人消費支出(PCE)価格指数」であり、「消費者物価指数」ではない、と再確認し、現状のインフレ高進は一時的、一過性の現象と一蹴している。

14-15日には、パウエルFRB議長が半期に一度の定例議会証言に臨む。FRBが公表した金融政策報告書では、短期的なインフレ見通しの上方向へのリスクが拡大したと物価の上振れリスクを警戒しながらも、供給制約が薄れるとともに2%強の目標水準に落ち着くとの従来の見解を強調し、完全に回復するまで経済を強力に支援し続ける、リスクが発生した場合、金融政策のスタンスを調整する用意がある、との従来スタンスが再確認されている。パウエルFRB議長は、金利予測分布図(ドット・プロット)で2023年末までのゼロ金利を予想している5名の少数派のハト派となっており、6月の非農業部門雇用者数の増加や平均時給の上昇を受けた議会証言に要注目となる。

17日からは、27-28日の米連邦公開市場委員会(FOMC)に向けたブラックアウト期間に入り、FRB高官の金融政策に関する発言は無くなることで、今週のFRB高官の発言には要注目となる。

ドル円のテクニカル分析では、陰線新安値4手で111.66円から109.53円まで下落したものの、下落トレンドの開始を示唆する新安値5手を数えずに、孕み線(インサイド・デイ)で、雲の上限の手前で反発していることで、先週の下落は調整局面に過ぎない可能性が示唆されている。本日は、一目・転換線110.60円や一目・基準線110.43円が攻防の分岐点となる。

本日のドル円のオーダー状況は、上値には、110.30-60円に断続的にドル売りオーダー、110.80円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買いが控えている。下値には、110.00円に本日のNYカットオプション、109.70円にドル買いオーダー、109.50円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 5月機械受注（予想：船舶・電力除く民需 前月比 2.4%／前年比 6.3%）
- 08:50 ◇ 6月企業物価指数（予想：前月比 0.5%／前年比 4.8%）

<海外>

- 16:00 ◇ 5月トルコ失業率
- 18:00 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 20:00 ◇ 5月メキシコ鉱工業生産（季調済）
- 21:00 ◎ 5月インド鉱工業生産（予想：前年同月比 32.0%）
- 13日 01:00 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演
- 13日 00:30 ◎ 米財務省、3年債入札
- 13日 02:00 ◎ 米財務省、10年債入札
- ユーロ圏財務相会合

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

9日 16:33 レーン・フィンランド中銀総裁
「新たなインフレ目標は明白」
「フォワードガイダンスに関する結論を22日に発表する」

9日 16:35 中国外務省
「(米国が中国籍企業をブラックリスト入りする可能性との報道について)中国企業を守るためにあらゆる予防措置を講じる」

9日 17:10 ワイトマン独連銀総裁
「欧州中央銀行(ECB)が意図的な物価オーバーシュートを図ることはない」

9日 17:15 ビルロワドガロー仏中銀総裁
「欧州中央銀行(ECB)のインフレ目標2%は上限ではない」

9日 19:57 ベイリー英中銀(BOE)総裁
「英国の生産性の伸びは期待外れだった」
「G20は世界貿易への開放性を強化すべき」
「経済のデジタル化による生産性の向上が続くことを期待」

9日 20:36 欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨(6月10日分)
「より良い見通しが理事会の政策態度に反映されることは公平だった」
「並外れて緩和的な金融政策スタンスを維持するというレーン氏の提案にメンバーは同意」
「パンデミックの期間を通じて好ましい資金調達環境を維持することが重要」
「金利の持続的な上昇が財政状態の引き締めにつながる可能性という懸念が表明」
「2023年のインフレ予測に対する上方リスクがある」

10日 00:39 米連邦準備理事会(FRB)
(HP上で公開した金融政策レポートで)「リスクが発生した場合、金融政策のスタンスを調整する用意がある」
「インフレ見通しは上方向のリスクが拡大した」

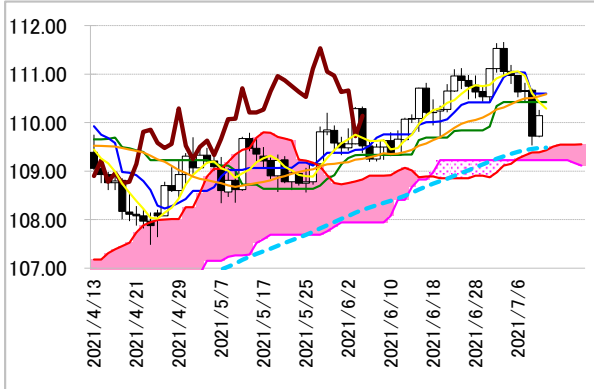
10日 01:54 ホワイトハウス
「バイデン米大統領とプーチン露大統領が電話会談を行った」

10日 02:13 ルッテ・オランダ首相
「新型コロナウイルス感染者の急増により、一部で抑制策を再実施する」
「抑制策は8月14日まで継続される」

11日 ビルロワドガロー仏中銀総裁
「インフレ目標が上限であるという考えから脱却する必要がある」
「戦略は長期的だが、金融政策決定会合ごとに政策変更を行うことは可能」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

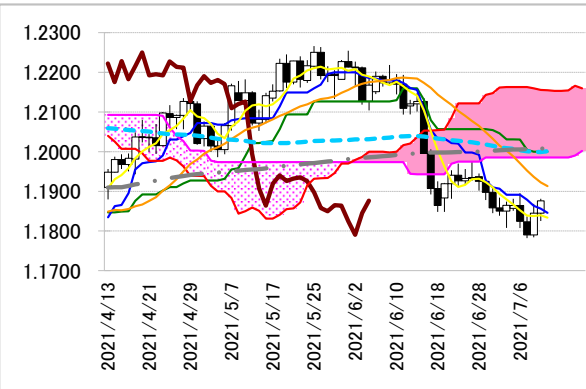


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。孕み線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることから反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	110.60(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	110.14
サポート1	109.43(日足一目均衡表・雲の上限)
サポート2	109.23(日足一目均衡表・雲の下限)

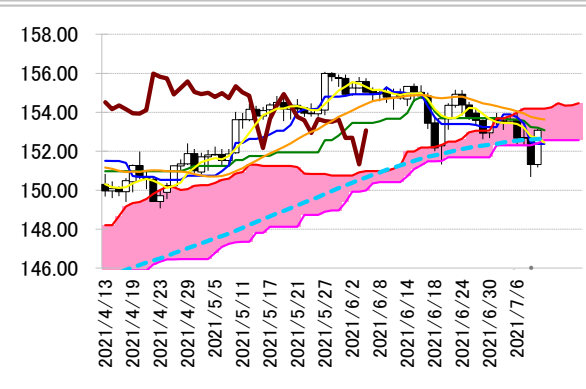


<ユーロドル＝7/7 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、2手連続陽線で反発し、転換線を上回って引けていることから続伸の可能性が示唆されている。

本日は、7/7の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1985(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1876
サポート1	1.1782(7/7 安値)

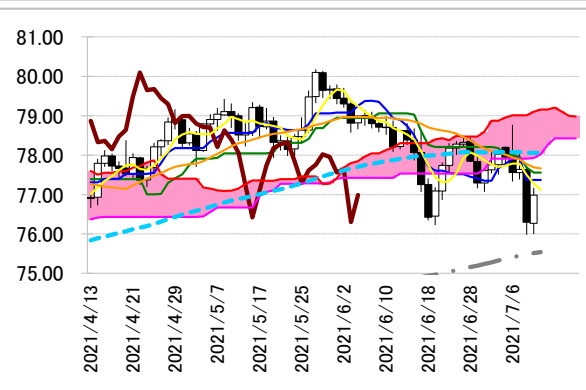


<ポンド円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、抱き線で反発し、転換線を上回って引けていることから続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	154.19(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	153.07
サポート1	152.37(日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。孕み線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることから反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	77.37(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	76.98
サポート1	75.98(7/8 安値)

